

大寒波襲来！

日本でもニュースになりましたが、2019年1月28日（月）から31日（木）まで Polar Vortex（極渦：きょくか、きょくうず）の影響により、アメリカ中西部に約90年ぶりともいわれる歴史的な大寒波が襲来し、ミシガン州でも各地で記録的な寒さとなりました。寒さのピークとなった30日（水）は、州内多くの地域で最高気温が -18°C 以下、体感温度は -40°C 以下に達し、アメリカ海洋大気庁によると、ミシガン湖（琵琶湖の約86倍の大きさ）の約50%が氷で覆われたとのことで、寒い冬に慣れているといわれているミシガン州民をも絶句させる寒さが続きました。

この大寒波を受け、グレッチェン・ホイットマーミシガン州知事は、1月28日（月）にミシガン州緊急事態宣言を発表。学校はもちろん、州政府機関や郵便サービス、病院までが一時閉鎖する事態となりました。

地元メディアでも外出は控えるよう注意喚起がなされ、もし車を運転する場合は、車内に携帯電話の予備バッテリー、毛布、携帯食・水を持ち込み、ガソリンはできるだけ満タンに保つことなどが頻繁にアナウンスされました。大雪や送電不良等の影響で大手自動車メーカーの製造工場が一時操業停止となるなど、経済面での影響も懸念されています。

2月1日（金）にはこれまでの大雪が嘘だったかのように青空が広がり、閉鎖していた学校や州政府なども再開。3日（日）には 10°C くらいまで気温が上がるとのことで、この浮き沈みする気温に対し、現地の同僚は「最近の気候は千鳥足のよっばらいのようだ。」と話していました。しかしながら、米中西部では今後もしばしばこの極渦の影響を受ける予想で、長く寒い冬になる見込みです。

メディアでは、現実となった「SF映画のような世界」の写真や動画が頻繁に取り上げられました（以下のURL参照）。右の写真はスペリオール湖を訪れた友人から提供いただいた写真です。見ている分には幻想的で良いのですが、本当に寒い（もはや痛い）ので近々、米中西部に来られる予定の方は万全の防寒対策で、お気を付けてお越しください。



サンタクロースのひげの
ような氷柱



氷で覆われたスペリオール湖